

山形新聞 2013年6月2日に掲載!

# ね見訪を古き再発見

## バードの足跡たどる

山形でイベント、県内外から参加者

明治時代に本県を訪れ、「アジアのアルカディア(桃源郷)」とたたえた英国人旅行家イザベラ・バードの足跡をたどるイベントが1日、山形市内で開かれ、参加者がバードの旅行記に理解を深めながらゆかりの地を歩いた。バードを通して本県の魅力を再発見し、全国に発信する目的で、2011年に結成された「アルカディア街道1・B倶楽部」が主催した。県内外から約40人が参加。初めに遊学館で研修会を開催した。講師を務めた同倶楽部会

長で元県立博物館長の錦啓さん(南陽市)は「バード



が鋭い観察眼と卓越した文章力で明治時代の本県を記録したことは県民にとって最高のプレゼントだ」と指摘し、バードの旅行記「日本奥地紀行」について解説した。続いて副会

長の渋谷光夫さん(山形市)が明治時代の市内の地図や写真を紹介した後、参加者が文翔館や旧済生館などを散策、バードの見た景色に思いをはせた。

文翔館など参加者がイザベラ・バードゆかりの地を巡った。 || 山形市